

「市村産業賞貢献賞」を受賞

日本製鉄は、(公財)市村清新技術財団主催の第53回市村賞において「市村産業賞貢献賞」を3年連続で受賞しました。今回は、鋼材の進化を支える超高強度鋼板加工技術の開発は、鋼材の利用加工技術としては初受賞となります。

本技術は、日本製鉄が自動車全体の付加価値を向上すべく構築している次世代自動車構造コンセプト「NSafe®-AutoConcept」において中核となるものの1つです。当開発技術により、①従来の2倍以上の強度を持つ超高強度鋼板を適用して車体の軽量化と高強度化を実現、②プレス加工後の余肉の削減でお客様の大幅な歩留り改善に貢献。1000万台以上の自動車に適用され、4万2300トン/年のCO₂排出量削減(*)に貢献しています。

※ 日本鉄鋼協会データにより算出

「DX認定事業者」の認定取得

日本製鉄は、経済産業省が定める「DX認定事業者」の認定を取得しました。DX認定制度とは、情報処理の促進に関する法律に基づき、デジタルガバナンス・コードの基本的事項を満たしている企業を国が認定する制度です。

日本製鉄の中期経営計画4つの柱の1つである「デジタルトランスフォーメーション戦略の推進」の取り組みが、経済産業省の認定基準を満たしており、ステークホルダーへの適切な情報開示がなされていることから認定取得に至りました。

「なでしこ銘柄」に初選定

日本製鉄は女性活躍推進に優れた企業として、経済産業省と東京証券取引所が選定する「なでしこ銘柄」に初選定されました。

経済産業省と東京証券取引所は共同で、女性活躍推進に優れた上場企業を「中期の企業価値向上」を重視する投資家にとって魅力ある銘柄として紹介。東京証券取引所の全上場企業を対象として実施された女性活躍度調査をもとに業種別にスコアの高い企業が選定されます。

第53回 市村賞贈呈式

公益財団法人 市村清新技術財団



写真提供：公益財団法人 市村清新技術財団

受賞者

名古屋製鉄所 品質管理部 上席主幹	田中 康治(左から2人目)
名古屋製鉄所 品質管理部 課長	宮城 隆司(中央)
技術開発本部 鉄鋼研究所 課長	西村 隆一(右から2人目)



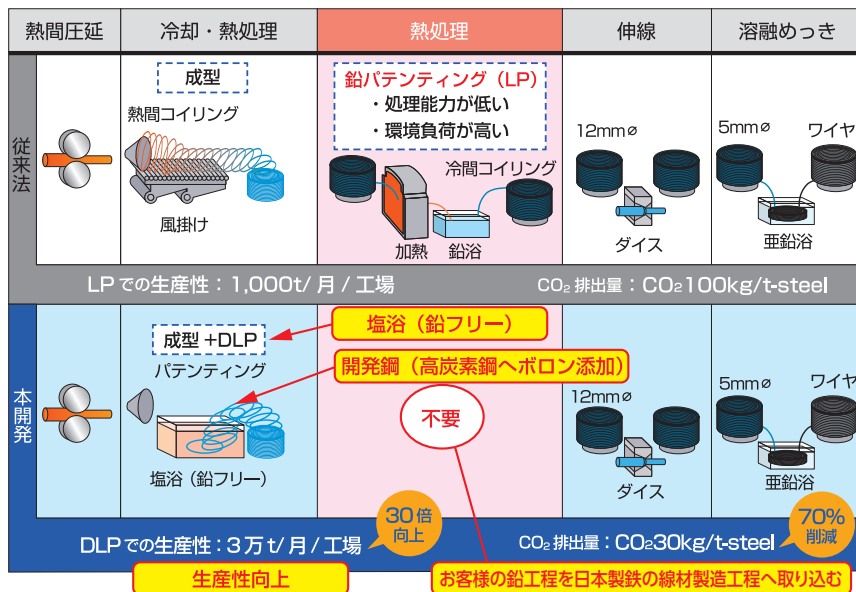
Digital Transformation
Certification



線材製造工程（日本製鉄）

ワイヤ製造工程（お客様）

橋梁 1 件当たりワイヤを
3,000～2 万トン程度使用



線材・ワイヤの製造工程

- ※1 LP処理：鉄鋼メーカーから供給された高炭素鋼線材を、ワイヤメーカーで加熱後、溶融鉛浴に浸漬して金属組織と引張強さを整える熱処理
- ※2 DLP(Direct In-Line Patenting)処理：線材圧延ライン中で圧延直後に溶融塩浴に浸漬して金属組織と引張強さを整える処理

日本製鉄が開発した環境負荷低減型超ハイテン橋梁ケーブル用線材の製造技術が「令和3年度文部科学大臣表彰 科学技術賞（開発部門）」を受賞しました。

本開発はワイヤの延性を低下させる金属組織の生成を回避するため、ホウ素とチタンを有効に添加しています。また、吊り橋などのメインケーブルに用いられる橋梁ワイヤの製造に欠かすことが出来なかったLP処理※1を省略して伸線できる橋梁ワイヤ用線材を世界で初めて製造可能にしました。生産能力が低く、また一部の国では環境規制の対象となっている鉛を使用するLP処理※2を施すことで省略可能にしました。これによりCO₂排出量削減による環境負荷低減と、従来の30倍もの生産性向上を実現しました。

「文部科学大臣表彰 科学技術賞」を受賞

「Clarivate Top100 グローバル・イノベーター 2021」を受賞

日本製鉄は、クラリベイトが保有する特許データをもとに知財・特許動向を分析し、世界で最も革新的な企業・機関を選出する「Clarivate Top 100 グローバル・イノベーター™ 2021」に9年連続で選出されました。

今回で10回目となる本アワードでは、世界のトップ100社のうち日本企業が29社受賞しました。そのなかでも2013年から9年連続で本アワードを受賞したのは、鉄鋼業では世界でも日本製鉄が唯一であり、長年にわたる研究開発活動および質の高い知的財産創出活動が、世界的にイノベータータイプの企業の一つとして客観的に認められたものと考えています。

Top 100
Global
Innovator
2021

Clarivate™

シェルよりサプライヤーアワード受賞

日本製鉄は、ロイヤルダッチシェルグループ（シェル）が年に1回選出する「エキイブメントサプライヤーオブザイヤー2020」を住友商事（株）と共同で受賞しました。本アワードに選出されるのは世界で1社のみであり、日本製鉄は2015年、18年、19年に続いて3年連続・4度目の受賞となります。

本アワードは、シェルの開発・製造ターゲットに最も重要な貢献をし、50年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにするシェルの目標を進展させたサプライヤーに授与されます。



広報誌バックナンバー

これまで鉄道、船、橋、缶、車などをテーマに特集を組んできました。QRコードを読み取ることで、バックナンバーをご覧いただけます。

なお、定期送付ご希望の方は下記アドレスよりお申し込みください。

<https://www.nipponsteel.com/company/publications/quarterly-nipponsteel/index.html>



読者アンケートはWEBでも受け付けています。

下記URLもしくはQRコードよりアクセスください。

<https://krs.bz/nssmc/m?f=78>

